

博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程

博士学位論文審査委員会

主 査 平田 貞代

審査委員 高崎 明人

審査委員 中村 仁

審査委員 山本 文子

*審査委員 森信 一郎(千葉工業大学)

氏 名	青山 早苗
論文題目	エッセンシャルオイル製品の設計における価値創造についての研究
<p>【研究の要旨】</p> <p>天然の植物精油であるエッセンシャルオイルは、鎮静や強壮等の自然な効用を有す。そのため、諸外国では消毒や抗鬱をはじめ医療にも活用されてきた。しかしながら、エッセンシャルオイルの研究は、生成や化合が容易な化学香料や化学薬品に比べ扱いが難しいために進んではいない。また、日本では、エッセンシャルオイルは低価格の女性用芳香雑貨として普及され、本来の効用は未だ詳しくは知られていない。</p> <p>本研究では、顧客満足度と収益を持続的に向上させるために、女性用芳香雑貨を上回る対価を得るエッセンシャルオイルの新たな製品価値を設計することを目的とした。本研究では、価値とは製品の利用により得られる良い体験であり、価値設計とは利用者に良い体験をさせるための製品やその供給方法を構築することと定義する。</p> <p>そこで、日本におけるエッセンシャルオイルの利用者、生産者、供給者、研究者等を対象とし、アンケートやインタビューを実施し、言説データを収集した。このデータを入力とし、SD法に基づく感性分析、多変量解析に基づく共起ネットワーク分析、カテゴリー別の相関に基づくコレスポンド分析、政治・経済・環境・技術の視点から構造を捉えるPEST分析を用いて、エッセンシャルオイルの生産から利用までのサプライチェーンを調査した。</p> <p>その結果、強壮成分が弱いエッセンシャルオイルの方が感性の男女差が比較的顕著であること、若者層の方が香りに対する関心の男女差が比較的大きく年配になるにつれ男女差が小さいこと、若年層では美容や趣味への要求が強く年配になるにつれ心身の整調への要求が増加し細分化すること、生産・供給・利用の間に大きな分断があること、その分断には医薬法や地方創生助成金といった日本特有の諸制約が起因していることを解明した。</p> <p>この調査結果を踏まえ、日本の医療と雑貨の狭間にエッセンシャルオイルによる「セルフヘルスケア」という新たな価値を設計した。つまり、年齢や性別により異なる感性や要求に応じ、利用者自身による適切なエッセンシャルオイルの選択、主体的・長期的な利用を可能とするエッセンシャルオイル製品や提供方法を提示した。さらに、本成果に対し、各関連分野の専門家から妥当性の評価を得た。</p>	

本研究は、超高齢化による保険財政の圧迫、長期通院による患者の経済的・時間的負担、薄利多売で成長が難しい供給者等の問題の軽減に対する貢献が期待できる。本研究で設計した価値とその供給方法を実装する製品の製造や商品化については、本研究で協力を得た他分野の専門家達と協力し取り組む予定である。

【審査結果の要旨】

審査会では 60 分間の発表の後、各審査員と申請者による質疑応答を実施した。

質疑においては、本研究テーマである「価値創造」は無形の情報であるがゆえに、新製品の領域や新市場の導出についての分析結果は示されたものの「製品の製造や販売による実験や実装などには至っていない点で成果としてのオリジナリティが（物理的には）分かり辛い」、「新製品の領域や新市場の導出自体が有意義な発見として認められる」といった審議があった。その他に、「研究要旨の不明瞭さ」、「研究目的やねらいと結果との整合性」といった記述上の欠点を含め、10 件の御指摘が挙げられた。

これらの御指摘の原因は、発表における口頭説明の曖昧さ、論文の記述不足に起因していること、各審査員から有効な改良案をご教示いただいたことから、全ての指摘事項について修正が可能であることが確認された。また、本研究に関して、学会で複数の受賞があったことについても確認された。

質疑応答の後、評価シートの記述により各審査員の評価を集計した結果、基準を下回る評価は無く、全員一致の合意に基づき、合格の結果に至った。